

## ナシヒメシンクイが平年よりも多く早く発生しています -なし園での第二世代幼虫の適期防除を行いましょう！-

### 1 発生状況等

県内4か所(那須烏山市、宇都宮市、芳賀町、高根沢町)に設置したフェロモントラップのうち、2か所(宇都宮市及び芳賀町)でナシヒメシンクイ(写真1~4)越冬世代成虫が平年よりも多く誘殺されました(図1)。また、4か所すべてで越冬世代成虫の誘殺最盛期が平年よりも早まりました。

気象庁の1か月予報(令和8(2026)年6月4日発表)によると、今後1か月の平均気温は平年より高くなる見込みで、本種の発生数の増加と発生の早期化が予想されます。今後、第一世代成虫の発生動向を注視し、第二世代幼虫の適期防除に努めましょう(図1、表1)。

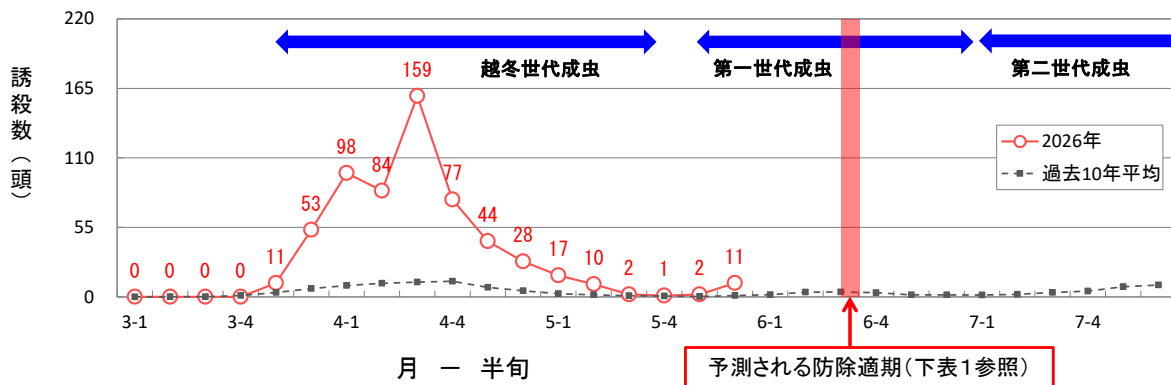


図1 フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ成虫の誘殺状況と防除適期 (宇都宮市)

表1 積算気温によるナシヒメシンクイ第一世代成虫の発生予測日と第二世代幼虫の防除適期

地点	予測される第一世代成虫の誘殺最盛日※2	予測される第二世代幼虫の防除適期※3
小山市	6月2日	6月9~11日
宇都宮市	6月4日	6月11~13日
那須烏山市	6月11日	6月18~20日

※1 フェロモントラップ調査結果参照 (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/yosatsu.html>)。

※2 アメダスデータを活用した予測値。

※3 第一世代成虫の誘殺最盛日から7~9日後が、第二世代幼虫の防除適期。



写真1 幼虫

写真2 ももの被害新梢

写真3 なしの被害果

写真4 成虫

## 2 防除対策

- (1) なし園内、またはその付近のバラ科樹木等（りんご、もも、うめ、さくら等）の被害新梢（写真2）はただちに摘除し、園外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) 次世代成虫の発生を防ぐため、被害果（写真3）はただちに摘除し、園外へ持ち出し適切に処分する。  
※ 果実の初期被害は葉や果実同士が接触する部分で発生しやすいため、よく確認する。
- (3) 交信攪乱用フェロモン剤を設置することで、次世代以降の発生を抑制する。
- (4) フェロモントラップ調査による第一世代成虫の誘殺ピークを参考にし、第二世代幼虫を対象とした適期防除を実施する（表1、2）。

表2 なしのシンクイムシ類に登録のある薬剤（令和8年5月31日現在）

農薬名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
スカウトフロアブル	2000倍	収穫前日まで	散布	5回以内	3A
アディオフロアブル	1500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
ディアナWDG	5000～10000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	5
ノーモルト乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	15
サムコルフロアブル10	2500～5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	28
テッパン液剤	2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
エクシレルSE	2500～5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ヨーバルフロアブル	5000～10000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	

詳細は、農業総合研究センター 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。  
病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi\_nousei)」、  
農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)  
でもご覧いただけます。

